

古道を訪ねて ②

巡礼道 (勝尾寺〜総持寺) ①

前回まで、西国二十三番札所「勝尾寺」と二十四番札所「中山寺」を結ぶ巡礼道をご案内しましたが、今回からは、二十二番札所「総持寺」と勝尾寺を結ぶ巡礼道をご案内します。

勝尾寺の山門から旧参道を南に向かい、道の横に建てられた一町から七町までの鎌倉時代の「町石」を通り過ぎ、さらに進むと右手に江戸時代建立の「十町石」があります。十町石を過ぎて約40mの所で左に曲がり、急激に下っていく道が巡礼道ですが、近年通る人がいなくなったため、道の痕跡がほとんど失われています(地図の点線部分)。

旧参道から分かれて、約400m、坂を下りきると勝尾寺川に突き当たります。川沿いに下流方向へ200



◀町石



mほど進み、川に架けられている橋を渡り、府道茨木能勢線(通称箕面ドライブウェイ)に合流し約50m進んでいくと、左手に「椿地蔵」と呼ばれる小さな祠があります。祠の横に「十六丁」と刻まれた、高さ1mほどの町石が建っており、勝尾寺までの距離(約1・75km)を示しています。府道により拡張された巡礼道を約1km進むと粟生間谷西6丁目の集落にたどり着きます。現在の粟生間谷地区は、東1丁目〜8丁目、西

1丁目〜7丁目と住居表示されていますが、昔の字名では、東の端の「勝尾寺川」と「裏川」が合流する辺りを「川合」、その西側、山の手前の集落を「山の口」、西の端のもっとも山に近い集落を「奥」、「山の口」と「奥」の間が「中村」でした。巡礼道をご案内するにあたっては、東何丁目では味気ないので、昔の字名を使っていきたいと思います。

「奥」の集落に入っても、しばらくの間、巡礼街道は府道に拡張され、その面影を失っていますが、西田橋から東で復活します。次回からは、奥・中村・山の口・川合と歴史の道をたどって行きます。

